

1 講座名・定員など

(1) 授業科目

科目名	実施時期	曜日	時限	授業時間	定員
工業力学及び演習	後期	水	2	1 時限 9:10~10:50	若干名
		隔週木	1		
環境の科学		木	3		
生命の科学		金	2		
環境計量Ⅱ		金	3		
MATLAB プログラミング		水	4	2 時限 10:55~12:35	
コンピュータアーキテクチャ		木	4	3 時限 13:20~15:00	
テクノロジーと音楽		月	3	4 時限 15:05~16:45	
マーケティング論		火	2	5 時限 16:50~18:30	
家族臨床心理学		月	4		
情報処理心理学	木	2			

※各科目とも授業は14回（ただし、「工業力学及び演習」は全21回）の予定です。
 ※授業は9月13日（金）から開始します。一部変則な取扱いがありますので注意してください。

(2) 場所

埼玉工業大学 埼玉県深谷市普濟寺1690

JR 高崎線岡部駅下車 無料スクールバス乗車又は徒歩(15分)

自家用車による通学可（駐車場無料）

各地区からの無料スクールバス案内

<http://www.sit.ac.jp/access/>



関越道利用の場合

関越道花園インター（熊谷・深谷方面）出口から国道140号線バイパスを直進し（3.7km約・6分）大きな交差点（大学の看板あり）を左折します。道なりに直進（5.0km・約7分）5つ目の交差点（大学の看板あり）を右折し直進（2.0km・約2分）してください。およそ大学まで17分程度で到着します。

2 受講料等

- (1) 受講料 1科目(半期)につき10,000円。
 ※受講科目決定後に、振込にて納入いただきます。
 ※一旦納入された受講料は、お返しできませんのでご注意ください。
- (2) その他 教科書等の教材は自己負担でご用意いただきます。

3 受講の申込み

- (1) 申込期限 令和元年8月1日(木)～令和元年8月19日(月) 必着
- (2) 申込先
 〒369-0293
 埼玉県深谷市普濟寺1690
 埼玉工業大学 教務課 リカレント係
 TEL: 048-585-6813 FAX: 048-585-5939
 E-mail: kyomu@sit.ac.jp
- (3) 申込方法
 はがき、FAX、E-mailのいずれかにより、以下の事項をもれなく記入の上、お申し込みください。
 ①郵便番号・住所
 ②氏名(フリガナ)
 ③年齢(平成31年4月1日現在)・性別
 ④電話番号
 ⑤受講希望科目(何科目でも可)
- (4) 選抜方法
 定員を超える申込みがあった場合は、先着順により受講者を決定します。
 受講の可否、受講決定科目は申込者全員にお知らせします。

4 各授業科目の概要及び担当教員

No	科目名(担当教員)	概要
1	工業力学及び演習 (河田直樹 准教授)	工業力学は機械工学科で学ぶ4大力学(材料力学、流体力学、熱力学、機械力学)の基礎として最も重要な科目として位置づけられている。 様々な実問題を、単純な力のつり合いや運動に関する問題に置き換えて解くことを目的とし、力や運動の扱い方、つりあう力の解析方法、力の作用のもとで起こる運動の記述方法、そして物体に力が作用するときの運動について講義する。

2	<p>環境の科学 (有谷博文 教授)</p>	<p>いわゆる「環境問題」の基本と考え方、取り組み方などを、専門分野も交えつつ解説します。身近な「環境」の問題(汚染問題、省エネルギー、自然エネルギー利用、リサイクルなど)、および国際的な「地球環境」の問題(温暖化ガス抑制、資源枯渇、食糧問題など)に分けて様々なトピックスを交えて講義します。それらはみな生活と直接結びついているので、いかにして環境問題を考えるか、生活の中でどのように役立てられるかを考えます。</p>
3	<p>生命の科学 (石川正英 教授 熊澤 隆 教授 秋田祐介 准教授)</p>	<p>生命科学は、生物の持つ特質に関する研究成果を統合するとともに、その意義を考えヒトとのかかわりを理解するための学問分野である。本講義は、生命科学の先端研究や技術を、幅広く「トピックステーマ」として紹介する。</p>
4	<p>環境計量Ⅱ (本郷照久 准教授)</p>	<p>地球環境問題が深刻化しつつある状況下、環境に係わる計量管理の重要性が社会的に強く認識されている。本講では、「環境計量Ⅰ」に引き続き、「環境計量士」(濃度関係)国家資格の取得希望者を対象に、「化学に関する基礎知識」と「化学分析概論」に関する試験対策用の講義を行う。</p>
5	<p>MATLAB プログラミング (高橋俊典 講師)</p>	<p>数値計算ソフトウェアである MATLAB の使い方について勉強します。数学、数値計算、プログラミングなどについての予備知識や経験は不要です。1人1台のコンピュータを使って一つ一つ実際に実行させながら本ソフトウェアの機能を知り、初歩的な使い方を身に付けることを目標とした学習を行います。複雑な作業をソフトウェアに任せることでコンピュータを活用することに集中することができます。</p>
6	<p>コンピュータアーキテクチャ (前田太陽 准教授)</p>	<p>コンピュータアーキテクチャは、コンピュータの内部構成であり、また設計思想とも言えます。ハードウェアとソフトウェアの様々な要素を元にして決定されます。現在のコンピュータがなぜ現在のようアーキテクチャになってきたのかを、コンピュータの多様な構成要素を学ぶことで理解していきます。具体的には、まずコンピュータシステムの基本動作原理を学び、次にその機能のうち CPU の役割、マシン語の実行のされ方、命令セット、データの表現などについて詳しく学びます。</p>

7	テクノロジーと音楽 (中川善裕 教授)	テクノロジーの進歩は音楽に様々な影響を与えてきた。では音楽家たちはテクノロジーの進歩にどんな可能性を見出したのだろうか？また実際にテクノロジーは音楽にどんな変化をもたらしたのか？ 20 世紀以降の電子音楽、具体音楽、テープ音楽、コンピュータ音楽などの歴史を学び、それらの疑問について考察してゆく。
8	マーケティング論 (宮崎洋 教授)	その形態や手法は事業により異なるが経営にとって欠くことのできない機能の一つがマーケティングである。ここでは事業形態によって必要となるマーケティング機能について整理し、マーケティングの基礎としての調査・分析手法について学ぶ。
9	家族臨床心理学 (三浦和夫 教授)	家族にはさまざまな関係がある。親と子、夫婦、祖父母と孫などである。今回は親子を中心に、深層心理学的な観点から考えてみたい。また家族自体にも成長がある。結婚、出産、育児、子供の思春期、子供の結婚、夫婦の危機、家族の死など、これらはファミリーライフサイクル論と位置づけられる。今回は家族の死について取り上げる。映画や昔話などの題材を取り上げ、また実際に映画を見ながら父、母、きょうだい、祖父母、家族について考えていきたい。
10	情報処理心理学 (大塚聡子 教授)	私たちは普段なにげなく周囲の状況を認識し理解しているが、そこには自身で意識できない心のはたらきや脳神経系のメカニズムが関与している。本講義では、人間が5感を通して得る情報を処理し反応・行動にいたるまでの過程について、心理学や脳神経科学における研究成果をもとに解説する。